



日々の暮らしに

香川芳子 女子栄養大学学長

周囲の人々の自然な表情を
写真におさめ、
届けるのが私の喜びです

私の趣味は写真撮影です。昭和30年ごろ、大学院で必要に迫られて欧文雑誌を複写するために覚えました。コピー機のない時代です。今は、被写体は周囲の人々の自然な表情です。50歳を過ぎたころ、鏡で自分の顔を見て「こんなはずない」とがっかり。そして、今より若いときの写真は撮れないことに気づきました。そのときどきの写真はその人の生きた記録です。いつもデジタルカメラを持ち歩き、その場で最もその人らしい表情をおさめます。写真はプリントして差し上げます。ご本人も気づ

かないよい表情をとらえている、病気が快癒して元気になったかたが写真を見比べてこんなに元気になった、とたいそう喜ばれることもあります。私の写真でもその人の歴史のひとつまと思うと、意味あることに思えてくるのです。

いつも通っている教会でも日曜学校の子どもたちを撮ります。比較的少ない、お父さんと一緒に写真や10歳ごろの写真はあとからふり返ると貴重なものです。いちばんその人らしい表情を写真におさめることができたとき、このうえない喜びに満たされるのです。